

日刊木材新聞
2021年10月28日付に
掲載されました。

ウッドショック対応で

複数材種の構造計算を可能に

KIZUKURI Ver 8.11

コンピュータシステム研究所

コンピュータシステム研究所（東京都、長尾良幸社長）は、木造建築物構造計算システムの最新版「KIZUKURI Ver 8.11」を発売した。

今回のバージョンアップでは、ウッドショックにより複数の材種を構造計算に使用することを可能にした。これまで、必要が生じていることから、複数の材種の部材により、算定計算ま

た検定計算による梁部材の材種、材寸の選定の省力化に対応した。材種別梁せいは、これまででは2種類の材種で算定していたが、複数の材種で梁せいの範

囲を設定可能とした。例えば、梁せい210mmまで米松、300mmまでE120、450mmまでLVLといった設定ができる。このように、決められた材ではなく、代わりの材を使っての設計がしやすくなった。

KIZUKURIは、3階建てまでの軸組工法木造建築物及び混構造建築物（1階がRC/S造で、2、3階が木造）の木造部分

の構造計算を行うソフト。日本住宅・木材技術センター発行「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2001年3版・08年版・17年版）」に準拠した構造計算が行える。今回のバージョンアップは、ウッドショックで適材がなく、設計ができないという事態を防ぐ目的で行われた。今後も木造設計の事情に合わせた機能を追加していく。